

江戸川区地域家族会発足に向けた取り組み

令和 3 年 3 月 1 日
江戸川区福祉部
生活援護第一課
ひきこもり施策担当係

令和元年度 ひきこもり調査結果概要

1. 各調査項目で多かった回答

当事者の年齢		同居の家族の有無		きっかけ		ひきこもり状態の期間	
40代	24.1%	有り	81.5%	疾病	188件	2～9年	38.2%
50代	20.0%	一人暮らし	16.9%	不登校	184件	10～20年	20.7%
未成年	18.9%	未回答	1.6%	失業・退職	143件	1年未満	9.8%

2. 自由意見で多かった回答

ひきこもり当事者	○「自立に向けたサポートが欲しい」「社会とのつながりを持ちたい」 ○「気軽に集まって話ができる場所が欲しい」「相談できる窓口がほしい」 ○「親のお金で生活している」「これからの生活が心配」
家族等	○「家族だけでの支援は困難」「本人に自覚がないため支援が困難」 ○「親同士が悩みを共有できる場所がほしい」「相談しやすい窓口がほしい」 ○「家族も苦しんでいる」「家族だけでの解決は困難」
関係機関・区職員	○「講習会や講演会があれば参加したい」「専門知識がある人が対応すべき」 ○「当事者を把握することが困難」「関係機関間で情報共有する場が必要」 ○「どこに相談したら良いか知りたい」「分かりやすい相談窓口がほしい」



令和2年度 江戸川区ひきこもり施策担当係発足

1.ひきこもり施策担当係発足

ひきこもりに関する調査を実施したが、個人を特定しない調査であったため個別支援につながっておらず、また自ら助けを求められない当事者・家族からの声を拾うまでには至っていない。

このまま、対策を行わないということは、家の中にいて社会との関わりを持たない区民が増え、生活困窮者の増加から社会保障費が増大することにつながる。**そこで令和2年度より、ひきこもり施策担当係が発足した。**

2.ひきこもり施策担当係発足当初

コロナ渦にありながら民間団体、他自治体などの関係機関へのヒアリングを実施。（令和2年4月～7月）

事業所	当事者	家族	自治体
19事業所	17人	7家族	2ヵ所

3. 調査などで把握できたこと

- ① 相談してこられる方は、**当事者よりも家族の方が圧倒的に多い。**
- ② 職員が話を聴くだけでなく、**家族が抱える悩みを共有できる場**が必要。

4.令和2年7月から地域家族会設立に向け着手

上記のことから、家族同士で悩みを共有し、支え合うことのできる場！！
江戸川区地域家族会設立に向け、準備を開始！！



江戸川区地域家族会発足までの経緯

1. 実施実績

日程	項目	参加者	協力
令和2年7月	家族会設立に向けた実態ヒアリング	1家族・2名	KHJ全国ひきこもり家族会連合会 楽の会リーラ
令和2年10月	第1回地域家族会発足準備会	8家族・11名	KHJ全国ひきこもり家族会連合会 楽の会リーラ
令和2年12月	第2回地域家族会発足準備会	11家族・13名	KHJ全国ひきこもり家族会連合会 楽の会リーラ

2. 参加した家族の声

- ① 行政が後押し（支援）して頂けるのは心強く感じる。
- ② もっと、同じ境遇の人たちの話を聴きたい。自分自身の意識を変えていきたい。
- ③ **家族会に参加してよかった。** 良いアドバイスを得ることが出来た。



3. 実施して感じた事

- ① 区の職員も参加し、家族が抱えている困難な状況を現場で知ることができた。
- ② 他の家族の悩みを聞くことで自分の家族を客観的に捉え、冷静に考える時間を得た。
- ③ 家族会が有用な資源であることを、確信した！！

江戸川区地域家族会の課題と今後

1. 地域家族会発足準備会実施により、見えてきた課題

NO	課題
①	地域家族会を運営していく目的
②	地域家族会の世話人としてのリーダーの必要性
③	地域家族会開催の会場、事前打ち合わせなどを開催する会場の確保
④	地域家族会が長く存続するために、どのように工夫していくか

2. 地域家族会の発足を目指すにあたり

- ① 地域家族会は自主運営で自らの力で立ち上げ、作り上げることが末永く地域家族会を存続させる必要な要素
- ② 江戸川区は一定の距離から寄り添いながら見守り、後方支援を行う。
- ③ 江戸川区と地域家族会が足踏みを揃え、目的を見失わないこと。

3. 今後について

- ① KHJ全国ひきこもり家族会連合会・楽の会リーラにご協力をいただき、令和3年1月に「地域家族会発足会議」を実施し、2名の世話人を選出
- ② 令和3年3月13日に「江戸川区地域家族会 発足会」を開催予定
家族会の運営方針を協議
- ③ 同日開催でKHJ全国ひきこもり家族会連合会・楽の会リーラ協力のもと相談会を実施し、相談を通じて地域家族会への入会を促す



まとめ

1. きっかけは、行政機関であるひきこもり施策担当係への相談の多くが当事者ではなく家族からであったこと。
2. メリットは公務のため安心して相談でき、行政との連携が初めからあること。
3. 課題は地域家族会の自主性が阻害されるのではないかということ。
4. 家族会に集う意義は家族の孤立を防ぐこと。
5. 関係機関との連携を築き上げ、地域のプラットフォームへと成長していくこと。

